

自己評価結果（令和4年度版）

令和5年6月23日公開

評価項目	学校関係者評価（昨年度）	自己評価
<p>（1）教育理念・目標</p> <p>○学校の理念・目的・育人人材像 ○職業教育の特色 ○地域社会等のニーズの反映 ○学校の理念・目的・育人人材などの教職員・学生・関係業界・保護者等への周知 ○学科毎の教育目標・育人人材像が、学科毎に対応する業界のニーズとのマッチング</p>	<p>・保護者とも対面やWEB面談を昨年同様実施していることで、本校の教育理念やどのような人物・人材となる教育をしているのか、保護者に理解していただける機会が持てたことは良いので、継続して欲しい。</p> <p>・就職、大学編入にこだわらず、学生の希望進路の業界のニーズを踏まえた教育を提供することに、邁進して欲しい。学校教育が大きく変わりつつある時代に見合った改革・変革を継続する必要がある。</p>	<p>・遠方の保護者面談や出席率低下傾向の学生との面談でWEB面談を継続して実施したことにより、学生状況をいち早く把握することが可能となった。本校教員と学生、保護者との連携を深めることに繋がった。</p> <p>・北九州ゆめみらいワーク2022では、地元北九州の中高生に向けて本校の学生が作成したPythonを用いたシューティングゲームを紹介した。情報分野での学生の成果物を用いることで、本校での特色ある学びを紹介する機会となった。今後も継続を行いたい。</p>
<p>（2）学校運営</p> <p>○運営方針に沿った事業計画 ○学校の運営組織や意思決定機能について、規則等の明文化と機能性 ○学校運営上の各種規程の整備状況 ○教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備状況 ○地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備状況 ○教育活動等に関する情報公開 ○情報システム化等による業務の効率化</p>	<p>・コロナ禍で、学校運営の変革が求められ、より一層コンプライアンス遵守の徹底が必要である。引き続き研修等で研鑽してもらいたい。</p> <p>・教育の質向上を図る取組みを継続して欲しい。研修を受けただけでなく、得た知識を活かして実践してもらいたい。伝達講習をすることで、研修を受けた教職員の確実な知識の定着が図れる。</p> <p>・多様性の時代を踏まえLGBTQ+を正しく理解し、コンプライアンス遵守に留意して欲しい。</p>	<p>・教育課程編成委員（外部評価委員）による授業視察を継続することで、常勤だけではなく、非常勤講師にも「教育の質向上」を意識付けることに繋がった。学生からの率直な評価を実施できたことで、より質の高い、わかりやすい授業を提供することが可能となった。また、非常勤講師の評価を実施したことにより、非常勤講師に本校の教育方針と理念を深める一助となった。</p> <p>・非常勤講師に対して、年度初めと後期開講前にコンプライアンス遵守等を含めた文書を通知している。本校の教育方針における更なる理解を深め、情報共有を行うことに繋がっている。</p>
<p>（3）教育活動</p> <p>（目標設定等） ○教育理念等に則した教育課程の編成・実施方針等 ○教育理念・育人人材像等を踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の適正性</p> <p>（教育方法・評価等） ○カリキュラム上にある科目の相互性及び補完性による体系化 ○キャリア教育等の視点に立ったカリキュラムやシラバスの工夫や開発 ○科毎の関連業界（団体・企業等）との連携によるカリキュラム・シラバス等の見直し ○科毎の関連業界（団体・企業等）における実践的職業教育の体系的な位置付け ○授業評価の実施及び評価体制 ○成績評価並びに単位認定、進級及び卒業判定の基準の明確化</p> <p>（資格試験） ○資格・検定取得等に関する指導体制及びカリキュラム上での体系的な位置付け</p> <p>（教職員） ○人材育成目標の達成に向けた教員の要件 ○関連業界との連携に関連した、優秀な教員の確保体制 ○教員に求められる、関連業界で必要とされる先端的知識・技術等の習得に向けた研修体制等 ○教職員の能力開発のための研修等</p>	<p>（目標設定等） ・教育のさらなる質向上を図るために、シラバスの改定を行ったことは大変良い。</p> <p>・コロナ禍でオンライン授業と対面授業のハイブリッドを実施し、選択型授業を実施できていることは評価する。</p> <p>（教育方法・評価等） ・昨年同様、中国青島大学と提携しているのに、コロナ禍で学生の派遣ができないことは、誠に残念である。時機を見て継続的に取り組んで欲しい。</p> <p>・期末試験未受験者への対応を厳しくすることは良いが、学生の出席率向上につながる取組みを実施して欲しい。コロナのため登校できない場合や期末試験を受けられない場合は、オンライン等を利用したり、追試を設定したり、学生の教育機会の喪失防止に今後も努めて欲しい。</p> <p>（資格試験） ・反転授業やeラーニング学習、リメディアル教育は数年前から実施しているが、検定試験や資格取得につながっているのか。学生の自主性に任せているだけで、教員や担当がきちんとフォローできているのか。ログイン状況や取り組み状況も定期的にチェックすべきである。</p> <p>（教職員） ・昨年度、学校関係者評価委員会より提案の</p>	<p>（目標設定等） ・近畿大学産業理工学部電気電子工学科の編入学合格者を輩出した。学生の進路の拡大に繋がった。</p> <p>（教育方法・評価等） ・放送大学との科目履修にて連携協力を行い、本校内で履修が難しい科目を受講することが可能となった。</p> <p>・反転授業の取り組みを行う授業科目が増加した。各々の教員の取り組みにより、学生独自の発想を表現することにより、思考力・判断力・表現力を育成することに繋がった。また今後の編入学試験における一つの対策としても有効性が高いと判断している。一方で、反転授業の向上に繋がっていない科目も一部見られている。教員の授業の組み立てにおいて工夫が必要とみなす授業科目も一部あるため、先輩教員等の授業の見学や助言を受け入れることが必要となる。</p> <p>（資格試験） ・リメディアル教育を導入しているが、学生の学力向上の一助としての運営ができていないと判断される。今後、担当者の変更等を行い、リメディアル教育の有効的な使用と学力向上に努めることが必要である。</p> <p>（教職員） ・定期的に実施される教職員研修において、</p>

	<p>あった、研修の伝達講習の機会が増えたことは喜ばしいことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度より導入予定であった評価制度であるが、自己評価・上長評価の統一が図れておらず、更なる見直しが必要である。次年度から本格導入を期待する。 ・学生の成績については、進学や就職の進路に大きく関わってくるため、公平公正に評価すべきである。期末試験時のルールの統一化、明文化を徹底してもらいたい。 ・授業視察や巡回の頻度が増えているため、今後も継続して欲しい。 ・組織的に3部署での役割分担のすみ分けをしており、校務分掌に従い業務を遂行してほしいが、教職員一丸で一つのチームでもあるので、各部署連携し、よりよい教育の提供、業務の効率化を組織全体で考えて欲しい。「思考」・「判断」・「表現」を学生の手本となるよう、教職員も念頭に置いて教育の質向上に努めてもらいたい。 	<p>継続的な伝達講習を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の質の向上のため、定期的な教職員研修を実施している。その一つが日テレドラマロールプレイを用いた教育手法である。この教育手法を用いて、教員自身の授業形式を見直し、学生指導に活かしたい。この教育手法は、思考力・判断力・表現力を育成する手法であり、教員が体験する中で学生教育への落とし込みを期待したい。 ・評価制度では、部署間での評点の付け方を統一するため、上長評価で部署間を超えた確認を行っている。評価の統一性が出始め一定の成果が出ている。 ・定期的な大学訪問を実施することで、大学が求める学生像について教員と学生に周知を行っている。また、教員の質の向上にも繋がり、教員の指導も同時に必要に応じて実施している。 ・専門性の高い実務経験のある教員の採用を実施したことにより、学生の学力向上と興味関心を引き出すことに繋がる学生指導が期待されている。 ・リズム食品株式会社様にご協力いただき、夏季期間の3週間に教員を在籍出向させていただいた。飲食業での店舗においては、教員とは全く異なる業界の中で、新たな発見やものの見方を得ることになった。今後も教員のキャリアにより必要に応じて教員の在籍出向を行う必要がある。
<p>(4) 学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就職率の向上体制 ○資格取得率の向上体制 ○退学率の低減対策 ○卒業生及び在校生の社会的な活躍等の把握 ○卒業生のその後のキャリア形成の把握と教育活動への改善活用 	<p>・多数の企業にインターンシップの受け入れをしていただけたことは、コロナ禍であること踏まえても、喜ばしいことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web面接を採用している企業・大学が多い中、学生が前向きに対応できて内定や合格を勝ち取っていることは、指導の賜物であると考えている。 ・コロナ禍で経済的や進路変更のため退学者が出たことは致し方ないが、学生の人生の大きな分岐点であるため、後悔のないよう指導して欲しい。 ・コロナ禍で入国している留學生が少ない中、「非適正校」になったことは遺憾であるが、国内での就職に、本校でビザ申請が可能になり、実際就職内定をもらえたことは、素晴らしいことである。今後も就職希望者の内定者数を増やしてほしい。 ・令和4年度の100周年事業については、コロナ禍ではあるが学校のアピールになるような事業となることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のインターンシップ参加について、22社の企業にてインターンシップを実施した。前年度は18社だったので、受け入れ企業数が増加した。受け入れて頂いた企業に感謝している。 ・就職の面接試験、編入試験ともにWebを用いた試験を採用されている会社・大学が半数程度続いている。遠方での試験では移動・宿泊に費用が掛かるが、それを気にせずに受けられると学生は前向きに捉えている。 ・学内企業説明会、合同企業説明会はオンラインで実施されるものが増加した。 ・退学者は全体で12名（うちコンピュータ会計科5名）であった。健康上・精神上的の問題が理由のほとんどを占めており、コロナ禍が続くことも要因として挙げられる。 ・留學生に関して、卒業・除籍・退学後の学生を勧誘する制度変更に伴い、入国管理局から「非適正校」となった。この機会に学習カリキュラムの見直し及び管理の徹底を行った。 ・留學生の就職に関しては、就職希望者5名中4名が就職内定をもらえた。

評価項目	学校関係者評価（昨年度）	自己評価
<p>（５）学生支援</p> <p>○進路・就職に関する支援体制 ○学生相談に関する支援体制</p> <p>○学生に対する経済的な支援体制 ○学生の健康管理に対する体制</p> <p>○課外活動に対する支援体制</p> <p>○学生の生活環境への支援体制</p> <p>○社会人のニーズを踏まえた教育環境整備について ○高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組</p> <p>○関連業界との連携による卒業後の再教育プログラム体制</p>	<p>・大学と協定を締結し、編入学できたことは喜ばしいことであり、協定の大学を拡大していくよう取り組んでもらいたい。</p> <p>・新型コロナウイルス対策として、空気清浄機を各教室に設置していることに加え、抗菌コートを定期的に塗布することで、安全・安心に授業ができるようにしたことは、素晴らしい。今後も感染予防対策継続に努めて欲しい。</p> <p>・コロナ禍で2年生については行事ができず、感染防止を徹底し、安全にバスハイクを実施できたことは良いことである。いかに実施できるか工夫が大事である。</p> <p>・学生に食の支援として、フードパントリーを実施したことは良いことである。一人暮らしでアルバイト収入が減少した学生から好評であったと報告を受け、学費減免だけでなく、いろいろな学生支援の在り方があることの気づきを得られたのではないかと。</p>	<p>・放送大学と協定締結を行い、今後も協定大学の拡充に取り組んでいく。コロナ禍である中で、協定締結校の近畿大学産業理工学部に大学見学と本校を対象としたオープンキャンパスを実施し、近畿大学産業理工学部の更なる魅力を学生に伝える機会となった。</p> <p>・精神的不安を抱えている学生の増加傾向により、外部カウンセラーによるスクールカウンセリングについて、令和5年度本格導入実施に向けてテスト運用を開始した。今後、多様性が広がる社会の中で生きづらさを感じる若者が増加する中で、生きづらさを生きやすさに変換するようなカウンセリングの実施に努めたい。</p> <p>・昨年度から継続してフードパントリーを実施した。コロナ禍における学生アルバイトや家計の圧迫により、食の支援を実施した。</p> <p>・物価高騰における文房具等の支援として図書カードを配布した。</p> <p>・北九州市より生理の貧困を防止するため女子学生を対象とした生理用品の配布を実施した。</p> <p>今後、学生にとって必要な支援に対して自ら手を挙げる大切さを実感して欲しい。</p>
<p>（６）教育環境</p> <p>○施設・設備の整備体制 ○実習施設・インターンシップ・海外研修等の教育体制の整備状況 ○防災等に対する整備状況</p>	<p>・インターンシップで受け入れていただいた企業へ学生が就職できたことは、大変素晴らしいことである。仕事内容や職場の雰囲気事前にわかり、就職ミスマッチが防げることは有効的である。</p> <p>・実習施設およびインターンシップ等の整備は十分に行われている。</p>	<p>・インターンシップの実施を行い、企業側からのニーズ、学生のキャリア構築のマッチングを行い、編入希望者・就職希望者を問わずインターンシップの情報開示について努めた。</p> <p>・3名の学生がインターンシップの受入企業への採用に至った。</p> <p>・実習設備に関してはコロナ禍の中、引き続き衛生上の管理の徹底を遵守した。</p>
<p>（７）学生の受入れ募集</p> <p>○高等学校等への情報提供等の体制</p> <p>○学生募集活動の適正性</p> <p>○学生募集活動における、資格取得・就職状況等の情報の正確性 ○校納金の適正性</p>	<p>・HPによる情報開示を見直したことでアクセス数が増加していることは良いことである。オンラインオープンキャンパスが今後主流になる可能性を考慮し、さらなる充実、参加者および入学者の増加を期待する。</p> <p>・TAOを使用したWeb出願システムでの出願の増加が顕著であることから、さらにペーパーレスが加速すると考えられる。本校に入学希望する高校生にわかりやすい情報提供を行って欲しい。</p> <p>・個人情報保護法を遵守した上での、学生の資格や進路状況の開示は徹底されている。</p>	<p>・TAOを使用したWeb出願システムでの出願について、全出願数の半分を占めたことから、前年度より増加している。Web出願方法のパンフレットを作成したことで、問い合わせ時に、パンフレットを見ながら説明でき、視覚的にわかりやすくなった。今後ますますWeb出願が増加すると想定し、より一層出願しやすいように周知を行う。</p> <p>・物価高騰を鑑み、校納金の適正を次年度以降見直す必要がある。</p>

評価項目	学校関係者評価（昨年度）	自己評価
（８）財務 ○学校の経営基盤体制 ○予算・収支計画の適正性 ○財務監査 ○収支状況の公開体制	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会の議事録を確認。 ・予算書の確認。 ・監査報告書を確認。 ・収支状況等は、決算書関係書類と監査報告書により確認。及び、公開情報も確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会による決議。 ・予算書に則した収支実行（経理規程による）。 ・理事会監事による監査実施。 ・収支状況の公開は学校関係者評価委員会の承認後、HPにて公開。

○収支状況（令和４年度分）

令和4年度				単位:千円			
収入	区分	金額	割合	支出	区分	金額	割合
	自己収入(A)	166,917	83.7%		教育研究経費支出(D)	51,949	24.5%
	授業料等収入(A-1)	160,140	80.3%		(※内奨学金)	25,479	(12.0%)
	その他収入(A-2)	6,777	3.4%		人件費支出(E)	96,182	45.5%
	事業収入(B)	9,858	4.9%		一般管理費支出(F)	45,785	21.6%
	補助金等収入(C)	22,625	11.4%		施設・設備関係支出(G)	2,553	1.2%
	借入金(D)	0	0%		その他支出(H)	15,160	7.2%
	合計	199,400	100%		合計	211,629	100%

※奨学金の過去5か年実績（単位：千円）

平成30年度：19,470 令和元年度：20,140 令和2年度：22,349 令和3年度：32,436 令和4年度：25,479

（９）法令等の遵守 ○コンプライアンス（法令等）の適正性 ○個人情報の保護対策 ○自己評価の実施と改善計画 ○自己評価結果の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・法律改正に伴う関連規則等の改正は今後も行って欲しい。 ・コンプライアンスおよび個人情報保護の遵守を徹底して欲しい。 ・「選挙権に関する学生への講習会」で市議会見学が中止になったのは残念である。感染状況を踏まえ今後、実施可能に向けた検討をして欲しい。 <p>・令和4年6月24日公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権法・個人情報保護法について研修を行い、法令遵守している。 ・「選挙権に関する学生への講習会」で市議会見学を実施することが出来た。 ・自己評価を基に学校関係者評価委員会よりいただいた意見を踏まえたうえで改善計画を策定し、HPに情報公開済み。 <p>・自己評価結果の公開については、令和5年6月公開予定。</p>
（10）社会貢献・地域貢献 ○学校を活用した社会貢献・地域貢献について ○学生のボランティア活動等 ○地域に対する公開講座や職業訓練等の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるが、清掃活動など近隣への活動は継続して欲しい。 ・コロナ禍のため、公開講座や職業訓練等の実施が減少していることは致し方ないが、withコロナで開催可能に向けた検討をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりに公共職業訓練を実施出来た。
（11）国際交流 ○留学生の受け入れ・派遣への戦略 ○留学生の受け入れ・派遣の実施状況 ○留学生（受け入れ・派遣）の学習体制及び評価・生活指導についての学内指導体制 ○学習成果の国内外での評価体制	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により留学生の受け入れ減少や、中国の青島大学への派遣留学の機会喪失で、国際交流が難しい現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により留学生の受け入れは激減しているが、少数精鋭となり、手厚くフォローが出来る状況である。 ・提携している中国・青島大学への派遣留学の再開の目は立たず引き続き保留中であるが、今後はアフターコロナを見越して、中国以外の国での大学との協定を模索していく。 ・学習の成果の国内外での評価体制は、検討中であるが、留学生卒業生5名の進路は、1名が進学、4名が日本国内での就職を実現出来た。

自己評価及び学校関係者評価結果（令和3年度版）

令和5年6月23日公開

評価項目	学校関係者評価（昨年度）	自己評価	学校関係者評価
<p>（1）教育理念・目標</p> <p>○学校の理念・目的・育成人材像 ○職業教育の特色 ○地域社会等のニーズの反映 ○学校の理念・目的・育成人材などの教職員・学生・関係業界・保護者等への周知 ○学科毎の教育目標・育成人材像が、学科毎に対応する業界のニーズとのマッチング</p>	<p>・保護者とも対面やWEB面談を実施していることで、本校の教育理念やどのような人物・人材となる教育をしているのか、理解していただける機会が持てたことは良い。 ・就職、大学編入にこだわらず、学生が将来すすむ業界のニーズを踏まえた教育を提供することに、邁進して欲しい。同じことを繰り返し教育していくのではなく、時代とともに教育も変革が必要である。</p>	<p>・保護者面談を対面だけでなくWeb面談を実施し、遠方の保護者とも面談の機会を設け、本校の理念・教育の理解浸透に努めた。 ・「愛・汗・献」の浸透にむけ学生便覧の改定を行った。</p>	<p>・保護者とも対面やWEB面談を昨年同様実施していることで、本校の教育理念やどのような人物・人材となる教育をしているのか、保護者に理解していただける機会が持てたことは良いので、継続して欲しい。 ・就職、大学編入にこだわらず、学生の希望進路の業界のニーズを踏まえた教育を提供することに、邁進して欲しい。学校教育が大きく変わりつつある時代に見合った改革・変革を継続する必要がある。</p>
<p>（2）学校運営</p> <p>○運営方針に沿った事業計画 ○学校の運営組織や意思決定機能について、規則等の明文化と機能性 ○学校運営上の各種規程の整備状況 ○教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備状況 ○地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備状況 ○教育活動等に関する情報公開 ○情報システム化等による業務の効率化</p>	<p>・コロナ禍で、学校運営の変革が求められ、より一層コンプライアンス遵守の徹底が必要である。引き続き研修等で研鑽してもらいたい。 ・定期的に外部評価委員が巡回することにより、常に意識し、よい緊張感を持って授業や業務を遂行できるよう改善されていることは継続してほしい。 ・評価システムを導入することで、質向上に期待する。</p>	<p>・外部評価委員（教育課程編成委員）による授業視察などは今年度も継続され、頂いたアドバイスは「教育の質向上」の一助になっている。外部評価委員の意見を元に本校非常勤講師の評価を行うことにも繋がった。 ・令和3年度より評価制度が導入され、「教育の質向上」を図ると共に、様々な研修を行った。協働の体制づくり「学校、学生、保護者との協働体制の構築」や、「人材育成」をテーマに教員力アップを図った。また、多様なセクシャリティであるLGBTQ+を正しく理解する研修を行い、コンプライアンス体制の整備も進みつつある。</p>	<p>・コロナ禍で、学校運営の変革が求められ、より一層コンプライアンス遵守の徹底が必要である。引き続き研修等で研鑽してもらいたい。 ・教育の質向上を図る取組みを継続して欲しい。研修を受けただけでなく、得た知識を活かして実践してもらいたい。伝達講習をすることで、研修を受けた教職員の確実な知識の定着が図れる。 ・多様性の時代を踏まえLGBTQ+を正しく理解し、コンプライアンス遵守に留意して欲しい。</p>
<p>（3）教育活動</p> <p>（目標設定等） ○教育理念等に則した教育課程の編成・実施方針等 ○教育理念・育成人材像等を踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の適正性</p> <p>（教育方法・評価等） ○カリキュラム上にある科目の相互性及び補完性による体系化 ○キャリア教育等の視点に立ったカリキュラムやシラバスの工夫や開発 ○科毎の関連業界（団体・企業等）との連携によるカリキュラム・シラバス等の見直し ○科毎の関連業界（団体・企業等）における実践的職業教育の体系的位置付け ○授業評価の実施及び評価体制 ○成績評価並びに単位認定、進級及び卒業判定の基準の明確化</p> <p>（資格試験） ○資格・検定取得等に関する指導体制及びカリキュラム上での体系的位置付け</p> <p>（教職員） ○人材育成目標の達成に向けた教員の要件 ○関連業界との連携に関連した、優秀な教員の確保体制 ○教員に求められる、関連業界で必要とされる先端的知識・技術等の習得に向けた研修体制等 ○教職員の能力開発のための研修等</p>	<p>（目標設定等） ・一部の学則科目の変更・追加およびシラバスの改定を行ったことで、教育のさらなる質向上を図れたことは大変良い。 ・オンライン授業と対面授業のハイブリッドを実施し、学生の学びを止めることなく対応できていることを評価する。 （教育方法・評価等） ・中国青島大学と提携しているが、コロナ禍で学生の派遣ができないことは、誠に残念である。時機を見て継続的に取り組んで欲しい。 ・期末試験未受験者への対応を厳しくすることで、追試料・再試料を設定することはよいが、本当に学生の出席率向上につながっているのか。これだけで出席率低下を防ぐことができる訳ではないため、登校できない場合には、オンライン等も利用をすること、学生の教育機会の喪失防止やメンタルケアにも配慮が必要である。 （資格試験） ・反転授業やeラーニング学習の実施は、大変良い取り組みであるため、どの学生にも浸透していくよう促すことが大事である。結果的に検定試験や資格取得につながり、合格率向上ができるのではないかと。 ・リメディアル教育を実践しているのに、学生にさせているだけになっているのではないかと。ツールを提供するだけでは、勉強が苦手な学生は取組みを行わずに成績不良とな</p>	<p>（目標設定等） ・授業の充実及び教育内容の更なる質の向上のため、シラバスの改定を行った。 ・コロナ禍での対応としてZOOMやYouTubeを利用したオンライン授業、ならびに対面で受講する学生と、オンラインにて同時に受講する選択型授業を実施し、コロナ禍でも対面を望む学生、望まない学生の両方のニーズを満たし同時進行できる方法を取り入れた。 （教育方法・評価等） ・コロナ禍により青島大学への日本人学生の派遣留学が今年度も実施できなかった。コロナ禍が沈静化したのち学内推薦の学生を派遣し単位互換を行う予定である。 ・期末試験未受験者への対応を厳しくしたが、出席率向上と言う効果については良い結果が出たとは言えないものとなった。出席率の向上に向け新たな施策に取り組んでいくとともに、オンライン授業の長期継続によるメンタルケアを施していく。ZOOMを用いた学級活動を行った。 ・日テレHRの動画を用いた授業を行い、「気付き、思考し、判断し、表現する。」ことを目的としたドラマロールプレイを用いたグループディスカッションを行った。意見を色付きチップで判定し、意見の傾向が見える化した。 （資格試験） ・反転授業について、計画はあったものの個人差が大きく実施は難しかった。eラーニングについて、学生ごとの使用頻度はいまだに差が大きく、勉</p>	<p>（目標設定等） ・教育のさらなる質向上を図るために、シラバスの改定を行ったことは大変良い。 ・コロナ禍でオンライン授業と対面授業のハイブリッドを実施し、選択型授業を実施できていることは評価する。 （教育方法・評価等） ・昨年同様、中国青島大学と提携しているのに、コロナ禍で学生の派遣ができないことは、誠に残念である。時機を見て継続的に取り組んで欲しい。 ・期末試験未受験者への対応を厳しくすることは良いが、学生の出席率向上につながる取組みを実行して欲しい。コロナのため登校できない場合や期末試験を受けられない場合は、オンライン等を利用したり、追試を設定したり、学生の教育機会の喪失防止に今後も努めて欲しい。 （資格試験） ・反転授業やeラーニング学習、リメディアル教育は数年前から実施しているが、検定試験や資格取得につながっているのか。学生の自主性に任せているだけで、教員や担当がきちんとフォローできているのか。ログイン状況や取り組み状況も定期的にチェックすべきである。</p>

	<p>るため、フォローアップが必要である。</p> <p>(教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であることを踏まえ、教職員研修の回数は減少したものの、内部研修が充実していることは喜ばしい。教員全員が参加すると業務に支障が出る場合もあるため、参加したものが欠席したものに知識の定着にもつながることから伝達講習を行ってはどうか。 ・上司の業務指示に従わないことは、遺憾である。令和3年度より評価制度導入予定のため、改善に期待する。 ・学生の成績については、進学や就職の進路に大きく関わってくるため、公平公正に評価すべきである。統一ルールを設定を求める。教育の質向上を図るためにも、授業視察や巡回の頻度を増やすべきである。 ・教職員は学生の手本となるため、職場であることを自覚し、友達感覚を払拭することが必須である。教職員室内の今までの悪しき慣習を排除していかなければ、組織としての未来はない。 	<p>強を嫌う学生には、強制をしたが実力は付いていない様子である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業BANTO認定試験の促進を行い教員も検定を取得した。また、シラバス改定により次年度以降は1年次に授業を配当することを決定した。 ・編入志望者に対してもeラーニングは継続しており、対象授業のスコアアップなどの一定の成果があった。 <p>(教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修のオンライン開催が増えたことでコロナ禍以前のベースになり、延べ26回の研修(前年度14回)となった。また、外部研修15回については内部への伝達講習も行った。 ・本校のビジョン・ミッション・指針の振り返り・本校の今後のあるべき姿を考える研修を行い、本校の未来像をOST(オープン・スペース・テクノロジー)にて共有した。そこで出た意見を基に取組むもの、実施完了したものにそれぞれ印を付け見える化した。 ・学生の成績、期末試験の実施などについて学生便覧にて統一ルールを設けた。 ・授業視察については、教育課程編成委員のみではなく、教員同士でも授業視察を行い、相互の授業改善や教員の質および教員力の向上に努めたい。 	<p>(教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、学校関係者評価委員会より提案のあった、研修の伝達講習の機会が増えたことは喜ばしいことである。 ・令和3年度より導入予定であった評価制度であるが、自己評価・上長評価の統一が図れておらず、更なる見直しが必要である。次年度から本格導入を期待する。 ・学生の成績については、進学や就職の進路に大きく関わってくるため、公平公正に評価すべきである。期末試験時のルールの統一化、明文化を徹底してもらいたい。 ・授業視察や巡回の頻度が増えているため、今後も継続して欲しい。 ・組織的に3部署での役割分担のすみ分けをしており、校務分掌に従い業務を遂行してほしいが、教職員一丸で一つのチームでもあるので、各部署連携し、よりよい教育の提供、業務の効率化を組織全体で考えて欲しい。 「思考」・「判断」・「表現」を学生の手本となるよう、教職員も念頭に置いて教育の質向上に努めてもらいたい。
<p>(4) 学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就職率の向上体制 ○資格取得率の向上体制 ○退学率の低減対策 ○卒業生及び在校生の社会的な活躍等の把握 ○卒業生のその後のキャリア形成の把握と教育活動への改善活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるのに、快くインターンシップを受け入れていただいた企業に感謝する。コロナ前は、本校も他企業や大学等よりインターンシップ受け入れを行っていたが、来年度以降再検討してはどうか。 ・就職試験や編入試験もコロナ禍で対応・対策が変化しているが、昨年度よりも内定や大学編入合格の実績を上げられたことは、素晴らしい。留学生に関しても、コロナ禍で帰国できない状況であっても、6名就職できたことは、喜ばしい。 ・コロナ禍で退学者が増加したことは致し方ないこともあるが、入学後のミスマッチによる退学をなるべく防ぐよう継続して取組んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加についてコロナ禍前ほどとはいかないが、前年度より受け入れ企業数が増加し18社の企業にてインターンシップを実施した。受け入れて頂いた企業に感謝している。 ・就職の面接試験、編入試験ともにWebを用いた試験を採用されている会社・大学が半数程度続いている。遠方での試験では移動・宿泊に費用が掛かるが、それを気にせずに受けられると学生は前向きに捉えている。 ・学内企業説明会、合同企業説明会はオンラインで実施されるものが増加した。 ・退学者6名であった。健康上・精神上の問題が理由のほとんどを占めており、コロナ禍が続くことも要因として挙げられる。 ・留学生に関して、卒業・除籍・退学後の学生を勧誘する制度変更に伴い、入国管理局から「非適正校」となった。この機会に学習カリキュラムの見直し及び管理の徹底を行った。 ・留学生の就職に関して、本校独自で就職ビザの申請が可能となったことで、留学生の就職先新規開拓のきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の企業にインターンシップの受け入れをしていただけたことは、コロナ禍であること踏まえても、喜ばしいことである。 ・Web面接を採用している企業・大学が多い中、学生が前向きに対応できて内定や合格を勝ち取っていることは、指導の賜物であると考えられる。 ・コロナ禍で経済的や進路変更のため退学者が出たことは致し方ないが、学生の人生の大きな分岐点であるため、後悔のないよう指導して欲しい。 ・コロナ禍で入国している留学生が少ない中、「非適正校」になったことは遺憾であるが、国内での就職に、本校でビザ申請が可能になり、実際就職内定をもらったことは、素晴らしいことである。今後も就職希望者の内定者数を増やしてほしい。 ・令和4年度の100周年事業については、コロナ禍ではあるが学校のアピールになるような事業となることを期待する。

評価項目	学校関係者評価（昨年度）	自己評価	学校関係者評価
<p>(5) 学生支援</p> <p>○進路・就職に関する支援体制 ○学生相談に関する支援体制</p> <p>○学生に対する経済的な支援体制 ○学生の健康管理に対する体制</p> <p>○課外活動に対する支援体制</p> <p>○学生の生活環境への支援体制</p> <p>○社会人のニーズを踏まえた教育環境整備について ○高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組</p> <p>○関連業界との連携による卒業後の再教育プログラム体制</p>	<p>・学生への連絡頻度に差が生じ、基準を明文化したことはよいが、作成した基準は徹底してもらいたい。</p> <p>・新型コロナウイルス対策として、各教室に空気清浄機を設置し、安全・安心に授業ができるようにしたことは、素晴らしい。今後も感染予防対策継続に努めて欲しい。</p> <p>・留学生は、高等教育の修学支援新制度の対象外のため、学生支援緊急給付金を活用し支援を行えたことは良かった。</p>	<p>・近畿大学産業理工学部と「編入学に関する協定書」を締結。初年度は9名が同学部へ編入した。</p> <p>・近畿大学産業理工学部と締結後、初の本校のみを対象とした「近畿大学産業理工学部大学ツアー」を実施した。参加した学生に大学のキャンパス内での模擬授業を受講した。学生は大学での研究やテーマをイメージすることができる機会となった。</p> <p>・県外から来た下宿生に対して3日以上欠席の場合は家庭訪問をするなど生活状況の把握をしたが、一部学生は連絡が付かないなど、担任によって差が発生する結果となった。</p> <p>・学生面談・保護者面談・家庭訪問等による学生相談に関する支援を継続している。</p> <p>・健康管理は年に一回校医による健康診断を実施。事務部に看護師経験者（常勤）を配置し教務部・校医等と連携し健康状況把握に努めた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策として検温・消毒・換気の徹底を継続している。自動検温測定器を新たに追加設置し、登校して来る学生がスムーズに検温できる体制にできた。ウイルス対応の空気清浄機を各教室へ設置をしているが、さらに、手を触れる箇所には抗菌コートを半年に1回塗布し、接触による感染拡大防止に努めた。北九州市の「学校における新型コロナウイルス感染症への対応について」をもとに感染予防に努め、学内クラスターは発生しなかった。</p> <p>・課外活動は今年度実績なし。福岡県専修学校各種学校協会の体育大会もコロナ禍により3年連続で中止となった。</p> <p>・コロナ禍により合宿・修学旅行・体育大会などが一度も実施されていない2年生に向け日帰りバスハイクを企画し、日本人学生・留学生全員参加の関門海峡ツアーを実施した。</p> <p>・コロナ禍における、文部科学省・学生支援緊急給付金(学びの給付金)を活用し、日本人学生・留学生共に経済的支援を行った。</p> <p>・本校独自の食の支援として「フードパントリー」を2回実施。コロナで収入が減少した学生に対し、米やパン、野菜や麺類、レトルト食品などを配布した。</p>	<p>・大学と協定を締結し、編入学できたことは喜ばしいことであり、協定の大学を拡大していくよう取り組んでもらいたい。</p> <p>・新型コロナウイルス対策として、空気清浄機を各教室に設置していることに加え、抗菌コートを定期的に塗布することで、安全・安心に授業ができるようにしたことは、素晴らしい。今後も感染予防対策継続に努めて欲しい。</p> <p>・コロナ禍で2年生については行事ができず、感染防止を徹底し、安全にバスハイクを実施できたことは良いことである。いかに実施できるか工夫が大事である。</p> <p>・学生に食の支援として、フードパントリーを実施したことは良いことである。一人暮らしでアルバイト収入が減少した学生から好評であったと報告を受け、学費減免だけでなく、いろいろな学生支援の在り方があることの気づきが得られたのではないかな。</p>
<p>(6) 教育環境</p> <p>○施設・設備の整備体制 ○実習施設・インターンシップ・海外研修等の教育体制の整備状況 ○防災等に対する整備状況</p>	<p>・実習施設およびインターンシップ等の整備は十分に行われている。</p>	<p>・インターンシップの実施を行い、企業側からのニーズ、学生のキャリア構築のマッチングを行い、編入希望者・就職希望者を問わずインターンシップの情報開示について努めた。</p> <p>・2名の学生がインターンシップの受入企業への採用に至った。</p> <p>・実習設備に関しては引き続き衛生上の管理の徹底を遵守した。</p>	<p>・インターンシップで受け入れていただいた企業へ学生が就職できたことは、大変素晴らしいことである。仕事内容や職場の雰囲気事前にわかり、就職ミスマッチが防げることは有効的である。</p> <p>・実習施設およびインターンシップ等の整備は十分に行われている。</p>

<p>(7) 学生の受入れ募集</p> <p>○高等学校等への情報提供等の体制</p> <p>○学生募集活動の適正性</p> <p>○学生募集活動における、資格取得・就職状況等の情報の正確性</p> <p>○校納金の適正性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HPによる情報提供体制は充実を図れている。コロナ禍でWEBでの情報収集はより進むので、高校生にもわかりやすいようなHP作成を今後も続けて欲しい。 ・個人情報保護法を遵守した上での、学生の資格や進路状況の開示は徹底されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPにおける情報開示の見直しとその充実を行った。 ・コロナ禍を考慮してオンライン説明会の充実を図り、約3割のオープンキャンパスをオンラインにて実施した。 ・世界標準のWeb出願システムであるTA0を使用しての出願が全入学者の半数以上とWeb出願の増加が顕著であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPによる情報開示を見直したことでアクセス数が増加していることは良いことである。オンラインオープンキャンパスが今後主流になる可能性を考慮し、さらなる充実、参加者および入学者の増加を期待する。 ・TA0を使用したWeb出願システムでの出願の増加が顕著であることから、さらにペーパーレスが加速すると考えられる。本校に入学希望する高校生にわかりやすい情報提供を行って欲しい。 ・個人情報保護法を遵守した上での、学生の資格や進路状況の開示は徹底されている。
---	--	--	---

評価項目	学校関係者評価（昨年度）	自己評価	学校関係者評価
（８）財務 ○学校の経営基盤体制 ○予算・収支計画の適正性 ○財務監査 ○収支状況の公開体制	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会の議事録を確認。 ・予算書の確認。 ・監査報告書を確認。 ・収支状況等は、決算書関係書類と監査報告書により確認。及び、公開情報も確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会による決議。 ・予算書に則した収支実行（経理規程による）。 ・理事会監事による監査実施。 ・収支状況の公開は学校関係者評価委員会の承認後、HPにて公開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会の議事録を確認。 ・予算書の確認。 ・監査報告書を確認。 ・収支状況等は、決算書関係書類と監査報告書により確認。及び、公開情報も確認。

○収支状況（令和3年度分）

令和3年度				単位：千円			
収入	区分	金額	割合	支出	区分	金額	割合
	自己収入(A)	203,359	81.0%		教育研究経費支出(D)	53,647	22.5%
	授業料等収入(A-1)	197,710	78.9%		(※内奨学費)	32,436	(13.5%)
	その他収入(A-2)	5,649	2.2%		人件費支出(E)	104,366	43.6%
	事業収入(B)	4,775	2.0%		一般管理費支出(F)	52,402	21.9%
	補助金等収入(C)	32,463	12.9%		施設・設備関係支出(G)	14,891	6.2%
	借入金(D)	10,000	4.0%		その他支出(H)	13,922	5.8%
	合計	250,597	100%		合計	239,228	100%

※奨学費の過去5か年実績（単位：千円）

平成29年度：17,220 平成30年度：19,470 令和元年度：20,140 令和2年度：22,349 令和3年度：32,436

（９）法令等の遵守 ○コンプライアンス（法令等）の適正性 ○個人情報の保護対策 ○自己評価の実施と改善計画 ○自己評価結果の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・法律改正に伴う関連規則等の改正は今後も行って欲しい。 ・コンプライアンスおよび個人情報保護の遵守を徹底して欲しい。 ・「選挙権に関する学生への講習会」で市議会見学が中止になったのは残念である。感染状況を踏まえ今後、実施可能に向けた検討をして欲しい。 ・令和3年6月21日公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権法・個人情報保護法について研修を行い、法令遵守している。 ・「選挙権に関する学生への講習会」で市議会見学を2年ぶりに実施。 ・授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)へ加入し、オンライン授業等の双方向性の授業を円滑に進めることが出来た。 ・自己評価結果の公開については、令和4年6月公開予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法律改正に伴う関連規則等の改正は今後も行って欲しい。 ・コンプライアンスおよび個人情報保護の遵守を徹底して欲しい。 ・「選挙権に関する学生への講習会」で市議会見学が中止になったのは残念である。感染状況を踏まえ今後、実施可能に向けた検討をして欲しい。 ・令和4年6月24日公開
---	---	--	---

（10）社会貢献・地域貢献 ○学校を活用した社会貢献・地域貢献について ○学生のボランティア活動等 ○地域に対する公開講座や職業訓練等の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるが、清掃活動など近隣への活動は継続して欲しい。 ・コロナ禍のため、公開講座や職業訓練等の実施が減少していることは致し方ないが、withコロナで開催可能に向けた検討をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フードパントリーお礼活動として清掃活動など近隣へのボランティア活動の推進を行った。 ・モザンビークいのちをつなぐ授業の後、SDGsの考えに則り古着の回収をし、授業内にて仕分け作業をしたのちNPO法人を通して寄付を行った。 ・コロナ禍ではあるが、地域貢献の一環として、近隣住民を対象とした無償の、Javaを用いたプログラミング講座、確定申告講座を実施した。2017年以来5年ぶりの開催となった確定申告講座は、今年度初めてWeb申告に対応できるようにしたことで、多数の参加があった。 ・職業訓練等の実施は出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるが、清掃活動など近隣への活動は継続して欲しい。 ・コロナ禍のため、公開講座や職業訓練等の実施が減少していることは致し方ないが、withコロナで開催可能に向けた検討をして欲しい。
--	---	---	---

<p>(11) 国際交流</p> <p>○留学生の受け入れ・派遣への戦略</p> <p>○留学生の受け入れ・派遣の実施状況</p> <p>○留学生（受け入れ・派遣）の学習体制及び評価・生活指導についての学内指導体制</p> <p>○学習成果の国内外での評価体制</p>	<p>・コロナ禍により留学生の受け入れ減少や、中国の青島大学への派遣留学の機会喪失で、国際交流が難しい現状である。</p>	<p>・コロナ禍により留学生の受け入れは減少している。日本へ留学できない状況が続いており、来年度はさらに厳しい状況になると予想できるため、新たな受け入れ制度を検討する必要がある。</p> <p>・コロナ禍のため、提携校の中国・青島大学への派遣留学については、再開の目途が立たず保留中。実現できるよう、継続検討していく。</p> <p>・学習成果の海外における評価は上記理由により実施していない。</p>	<p>・コロナ禍により留学生の受け入れ減少や、中国の青島大学への派遣留学の機会喪失で、国際交流が難しい現状である。</p>
--	---	---	---